専門分野Ⅰ実習

授業科目（単位―時間） 基礎看護学実習Ⅰ（1 単位―45 時間）	時　　期 1 年前期	担　当　講　師 山口　理恵

〈　授業科目の目標・概要等　〉

1. 健康障害のある対象の生活環境を知り、望ましい療養環境を理解する。
2. 対象に合わせた看護技術の特徴を理解することができる。
3. よい人間関係を築くためのコミュニケーションが実施できる。
4. 看護チームの一員として、報告･連絡･相談ができる。
5. 自己の看護技術に対する考えを述べることができる。
6. 継続的に学習し、主体的な行動がとれる。

内容及び方法	実習場所
1. 対象理解 1）対象者の健康障害や入院による生活環境の観察 2）対象者の望ましい療養環境の理解 2.　対象に合わせた看護技術 1）対象者に行われている清潔援助の目的の理解 2）対象の特性に合わせた方法（個別性）の理解 3）バイタルサイン測定を行う必要性の理解 3. 援助関係 1）礼儀正しく、誠実なコミュニケーション 2）対象の行動や態度、表情、言葉に関心を向けた対応 3）リフレクティブ・サイクルを活用した記述･描写 4. 協働 1）正確な報告･連絡･相談 2）グループメンバーとの情報共有と協力 3）カンファレンスへの主体的な参加 5. 看護観 1）実習中の自己の体験（見学含む）をもとにした「看護技術について」学びの表現（カンファレンス、行動計画表、レポート） 2）文章構成に基づくレポートの記述 6. 実習態度 1）実習に支障をきたさないための健康管理 2）身だしなみの気配り、礼儀正しく節度ある行動 3）実習の事前準備、実習場所での準備・後片付け 4）責任をもち約束事を守る姿勢 5）実習に興味・関心をもち、意欲的・積極的な取り組み 6）自己の課題を意識し、解決するための努力	砂川市立病院 4 階東病棟 5 階東病棟 5 階西病棟 6 階東病棟 6 階西病棟 7 階西病棟

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位―時間） 基礎看護学実習Ⅱ(2 単位―90 時間)	時　　期 1 年後期	担　当　講　師 山口　理恵

〈　授業科目の目標・概要等　〉

1. 意図的に得た情報から、必要な援助を導くことができる。
2. 個別性を考慮した日常生活の援助が安全･安楽に実施できる。
3. よい人間関係を築くためのコミュニケーションが実施できる。
4. 看護チームの一員として責任ある行動がとれる。
5. 看護の実践を通して、自己の看護に対する考え方を述べることができる。
6. 継続的に学習し、主体的な行動がとれる。

内容及び方法	実習場所
1. 対象理解 1) アセスメントに必要な情報収集と分類整理 2) 対象の社会･心理的側面の理解 3) アセスメントの枠組みに沿った情報の分析 4) 対象の全体像の把握 2. 計画立案・実施・評価 1) 個別性のある実現可能な看護目標の設定 2) 対象に適した看護計画の立案 3) 具体的かつ個別性のある援助マニュアルの作成 4) 実施前･中･後の対象の観察と説明 5) 対象に安全・安楽な実施 6) 対象に実施した援助の評価 3. 援助関係 1) コミュニケーションの場と雰囲気づくり 2) 対象に関心を向けたコミュニケーション 3) 対象の感情や思考に沿う傾聴 4) 自己の関わりの評価 4. 協働 1) I-SBAR を意識した報告・連絡・相談 2) グループメンバーとの情報共有と協力 3) カンファレンスの目的達成にむけた主体的な参加 5. 看護観 1) 倫理に基づいた看護実践の振り返り 2) 自己の体験をもとにした看護についての学びの表現 6. 実習態度 1) 実習に支障をきたさないための、健康管理 2) 身だしなみの気配り、礼儀正しく節度ある行動 3) 責任をもち約束事を守る姿勢 4) 計画的で適切な時期での記録物の提出 5) 実習に興味・関心をもち、意欲的・積極的な取り組み 6) 自己の課題を意識し、解決するための努力	砂川市立病院 4 階東病棟 4 階西病棟 5 階東病棟 5 階西病棟 6 階西病棟 7 階西病棟

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

専門分野Ⅱ実習

授業科目（単位－時間）	時　　期	担　当　講　師
成人看護学実習Ⅰ（2 単位－90 時間）	2 年前期	東條　奈穂

〈　実習目標　〉

1. セルフケアの再獲得が必要な成人期にある対象と支援者の身体的・精神的・社会的特徴を理解することができる。
2. セルフケアの再獲得にむけた、個別的で根拠のある援助計画を立案し、実施・評価できる。
3. 健康障害が対象や支援者に及ぼす影響を理解し、障害の受容をふまえた関わりができる。
4. 看護チームの一員としての自覚と責任を理解できる。
5. 自らの看護実践を通して、看護に対する考えを述べることができる。
6. 主体的に学習し、責任ある行動がとれる。

内容及び方法	実習場所
1. ヘンダーソンの看護過程に基づく対象理解 1）発達理論を活用した成人期の発達課題の理解と対象の照合 2）対象の病理的状態(疾病、治療、検査)と生活背景との関連の理解 3）情報の適切な整理・分類と充足・未充足の根拠の明確化 4）科学的根拠に基づく看護問題の分析 2. 計画立案・実施・評価 1）看護問題の統合と優先順位の適切な判断 2）個別性を考慮した具体的な目標設定 3）セルフケアの再獲得に向けた援助計画の立案 4）観察した結果のアセスメントと報告 5）対象の状況に適した方法で看護を実践 6）実践した看護の客観的評価 7）実践したい援助や処置を実行するための調整 3. 援助関係 1）対象と支援者の健康問題や生活行動の変更に対する認識の理解 2）対象の価値観と個別性を尊重したかかわり 3）障害の受容過程をふまえて苦痛を和らげるための行動 4）親しみやすく礼儀正しい態度でのコミュニケーション 5）行動計画表や再構成による自己の関わりの分析 4. 協働 1）優先度とタイミングを判断した報告・連絡・相談 2）お互いの行動を見ながらの行動調整と連携 3）他職種の専門性や役割、連携の必要性の理解 4）カンファレンスでの目的達成に向けた企画と運営 5. 看護観 1）自己の体験に基づきセルフケア再獲得を支える看護について理解したことの記述 2）文章構成に基づいたレポートの記述 3）適切な文献選択と活用 6. 実習態度 1）実習に支障を来たさないための健康管理 2）身だしなみに気を配り、礼儀正しく節度ある態度 3）責任を持って約束事を守る姿勢 4）実習に興味・関心を持ち、疑問を解決する為の主体的な行動 5）自己の課題を意識し、解決するための努力	砂川市立病院 4 階東病棟 4 階西病棟 5 階東病棟 5 階西病棟 6 階東病棟 6 階西病棟 7 階西病棟

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位－時間） 成人看護学実習Ⅱ（2 単位－90 時間）	時　　期 2 年後期	担　当　講　師 東條　奈穂

〈　実習目標　〉

1. セルフマネジメントが必要な成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。
2. 成人期にある対象と支援者が、セルフマネジメントを可能にするための援助計画を立案し、実施・評価できる。
3. 成人期にある対象と支援者が療養に対してエンパワメントされるように、パートナーシップを築きながら支援できる。
4. 他職種との連携を学び、チームの一員としての看護師の役割を理解する。
5. 自らの看護実践を通して、看護に対する考えを述べることができる。
6. 主体的に学習し、責任ある行動がとれる。

内容及び方法	実習場所
1. 対象理解 1）発達理論を活用した成人期の発達課題の理解と対象との照合 2）対象の病理的状態（疾病、治療、検査）と生活背景との関連の理解 3）潜在的な健康問題を視野にセルフマネジメントの視点を含めたニードの充足・未充足状態の判断 4）科学的根拠に基づく看護問題の分析 5）未充足の原因・誘因に働きかける看護の方向性の理解 2. 計画立案・実施・評価 1）セルフマネジメント支援の視点に基づく適切な看護問題の統合と優先順位の判断 2）個別性を考慮した具体的な目標設定 3）セルフマネジメントの視点をふまえた援助計画の立案 4）観察した結果のアセスメントと報告 5）対象の状況に適した方法で看護を実践 6）実践した看護の客観的評価 7）実践したい援助や処置を実行するための調整 3. 援助関係 1）対象と支援者の健康問題や生活行動の変更に対する認識の理解 2）対象の価値観と個別性を尊重したかかわり 3）セルフマネジメントへの取り組みに伴う苦痛を和らげるための行動 4）親しみやすく礼儀正しい態度でのコミュニケーション 5）行動計画表や再構成による自己の関わりの分析と活用 4. 協働 1）優先度とタイミングを判断した報告・連絡・相談 2）お互いの行動を見ながらの行動調整と連携 3）他職種との連携と看護の役割の理解 4）カンファレンスでの目的達成に向けた企画と運営 5. 看護観 6. 実習態度 ＊看護観、実習態度の内容は成人看護学実習Ⅰと同様である。	砂川市立病院 4 階東病棟 5 階東病棟 6 階東病棟 7 階西病棟

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位－時間） 成人看護学実習Ⅲ（2 単位－90 時間）	時　　期 2 年後期	担　当　講　師 東條　奈穂

〈　実習目標　〉

1. 健康危機状況にある成人期の対象と支援者の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。
2. 健康危機状況にある成人の権利を尊重し、苦痛の緩和や回復促進に向けた安全・安楽な援助計画の立案と実施・評価ができる。
3. 健康危機状況にある成人期の対象と支援者に意図的に関わり、関係性を発展させ適応を促すことができる。
4. 他職種との連携を学び、チームの一員としての看護師の役割が理解できる。
5. 自らの看護実践を通して、看護に対する考えを述べることができる。
6. 主体的に学習し、責任ある行動がとれる。

内容及び方法	実習場所
【病棟実習】 1. 対象理解 1）発達理論を活用した成人期の発達課題の理解と対象との照合 2）対象の病理的状態(疾病・治療・検査)と生活背景との関連の理解 3）身体機能悪化の可能性をふまえたニードの充足・未充足の判断 4）科学的根拠に基づく看護問題の分析 2. 計画立案・実施・評価 1）健康危機状況における看護問題の統合と方向性の明確化 2）個別性を考慮した具体的な目標設定 3）身体機能悪化の予防と回復促進に向けた援助計画の立案 4）観察した結果のアセスメントと報告 5）対象の状況に適した方法で看護を実践 6）実践した看護の客観的評価 7）実践したい援助や処置を実行するための調整 3. 援助関係 1）対象と支援者の健康問題に関する認識および生活行動変更に対する認識の理解 2）対象の価値観と個別性を尊重したかかわり 3）健康危機状況に伴う苦痛を和らげるための行動 4）親しみやすく礼儀正しい態度でのコミュニケーション 5）行動計画表の振り返りや再構成による自己の関わりの分析と援助への活用 4. 協働 1）優先度とタイミングを判断した報告・連絡・相談 2）お互いの行動を見ながらの行動調整と連携 3）他職種の専門性および連携の実際の理解 4）カンファレンスでの目的達成に向けた企画と運営 5）手術室・救命集中治療センター実習における看護師の役割と連携の理解 5. 看護観 6. 実習態度 ＊看護観、実習態度の内容は成人看護学実習Ⅰと同様である。	砂川市立病院 4 階東病棟 4 階西病棟 5 階西病棟 6 階西病棟 ＜見学＞ ・手術室 ・救命集中治療センター

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位－時間） 老年看護学実習Ⅰ（2 単位－90 時間）	時　　期 2 年前期	担　当　講　師 槙　麻夕子

〈　実習目標　〉

1. 加齢に伴う変化や健康課題をもちながら生活している対象を総合的に捉えることができる。
2. 健康の保持･増進に向けて、対象の生活行動のもてる力に着目して安全に生活支援ができる。
3. 高齢者の生きてきた過程を尊重し対象に応じたコミュニケーションができる。
4. 高齢者に関わる保健医療福祉の実際を知り、地域や施設における他職種との協働について学びを深められる。
5. 老年看護の役割について自己の考えを述べることができる。
6. 看護学生である自覚をもち、事前学習を活用した計画的な学習ができる。

内容及び方法	実習場所
1. 対象理解 1）高齢者の心理や生活史に関心をもった情報収集 2）加齢に伴う変化をふまえた発達段階の特徴の理解 3）対象の生活に影響を及ぼす病理的状態の理解 4）対象の生活行動に影響を及ぼす基本的欲求の未充足状態の判断 5）高齢者にとっての療養環境･生活環境の実際 2. 計画立案･実施･評価 1）高齢者のもてる力に注目した個別性を目指す援助計画 2）看護師とともに行う既習の看護技術を活用した生活支援の安全な実施 3）もてる力を活用し脳の活性化を促す援助計画の安全な計画･立案 3. 援助関係 1）高齢者の特徴や健康障害に応じたコミュニケーションの工夫 2）非言語的コミュニケーションの活用 3）よい人間関係確立のために対象の言動に関心を向けた積極的関わり 4）高齢者の生きてきた過程と多様な価値観の尊重及び傾聴･共感についての考察 5）日々の振り返りによる自己の関わり方の評価 4. 協働 1）各施設サービスの実際と、制度と関連付けた機能・役割の理解 2）各施設における高齢者の生活を支える他職種との連携の必要性の理解 3）保健医療福祉チームの一員として、必要な報告・連絡・相談 4）目的達成を目指した、グループメンバーとの情報共有、協力 5. 看護観 1）老年観の深まりについての表現 2）自己の体験をもとに高齢者の QOL と老年看護の役割について学びを表現 3）文章構成に基づく自己の意見整理と明確な要点の表現 4）高齢者の生活ともてる力に着目した個別性ある関わりについて自己の考えを表現 5）カンファレンスで自己の意見の明確な表現 6. 看護学生である自覚をもった計画的学習と実習態度	砂川市立病院 （病棟 4 部署）

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位－時間） 老年看護学実習Ⅱ（2 単位－90 時間）	時　　期 3 年前期～後期	担　当　講　師 槙　麻夕子・山口　理恵

〈　実習目標　〉

1. 健康課題のある高齢者を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉え、もてる力に注目した看護を導き出せる。
2. 倫理観に基づき、高齢者の看護が安全・安楽に実践できる。
3. 高齢者の生きてきた過程と価値観を尊重し、関係性を発展できる。
4. チームでの看護実践から看護の役割を理解し、協働のあり方を考察できる。
5. 自己の老年観、看護観を表現できる。
6. 主体的に学習し、責任ある行動がとれる。

内容及び方法	実習場所
1. KOMI 理論を活用した対象理解 1）老年期の発達段階をふまえ対象理解のための情報整理 2）対象の生命過程と生活過程及び認識過程のアセスメント 3）対象のもてる力を活用し害となるものを縮小できるケア方針の立案 4）対象の解決すべき課題及びケアに活用できる点とケア方針との関連性の明示 2. 計画立案・実施・評価 1）ケアの方向性に沿って創意工夫した具体的で実践可能な計画立案 2）高齢者の特徴をふまえた系統的なフィジカルアセスメント 3）原理・原則を守り、もてる力を活用した看護技術の提供 4）計画的・継続的な看護実践のための評価及び計画修正 5）高齢者の自己決定や人権を尊重した看護実践 6）看護実践における倫理的ジレンマの気づき及び最善の方法の共有・検討 3. 援助関係 1）対象の加齢に伴う機能変化に対応した意図的なコミュニケーション 2）対象の価値観を尊重した意図的なコミュニケーションによる関係性の発展 3）対象の支える力を考慮したコミュニケーション 4）日々の振り返りによる自己の関わり方の評価 4. 協働 1）チーム看護を意識したカンファレンスへの参加・情報共有 2）学生チーム間でリーダーシップ・メンバーシップを発揮した行動調整 3）目的達成を意識したカンファレンスの企画・運営 4）看護チームの一員として必要な報告・連絡・相談 5）老年看護における保健医療福祉チーム連携と看護の役割の理解 5. 自己の看護実践の意味づけと看護観・老年観の表現 6. 実習目標達成に向けた主体的に学習する実習態度	砂川市立病院 （病棟 4 部署）

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位―時間） 小児看護学実習（2 単位―90 時間）	時　　期 3 年前期・後期	担　当　講　師 加藤　恵・柳町　良子

〈　実習目標　〉
1. 小児の身体的・心理的・社会的特性を、成長発達や家族関係と関連づけて理解できる。
2. 小児の特性を意識し、健康の回復にむけた看護を安全安楽に実践できる。
3. 小児の権利や意思を尊重し、発達段階にあわせたコミュニケーションを実践できる。
4. 保健医療福祉チームとの連携の必要性を理解できる。
5. 小児看護の役割を理解し、自己の看護観が表現できる。
6. 主体的に学習し責任ある行動がとれる。

内容及び方法	実習場所
＜病棟・外来実習＞ 1. 健康問題を持つ小児と家族の支援について理解する。 2. 小児の発達段階に応じた回復の促進、日常生活援助を実践する。 3. 小児の発達段階・個性や家族との相互作用を意識したコミュニケーションを実践する。 4. NICU の見学を通して、成長発達促進のための母子相互作用と環境調整を学ぶ。 5. 乳児健診や予防接種を受診する小児とその家族と関わり、あらゆる健康レベルの小児と家族の看護について理解する。 6. 保健医療福祉チームの一員としての責任を持ち、解釈や判断を含めた連絡・報告・相談を行う。 7. カンファレンスに主体的に参加し、学びを共有する。また、自己の看護実践の意味づけにより、看護観を深める。	砂川市立病院 3 階病棟(小児科) 小児科外来
＜保育所実習＞ 1. 各クラスの乳幼児と関わり、健康な小児の発達段階・発達課題の特徴を理解する。 2. 発達段階、理解力、個性に応じたコミュニケーションの工夫を学び、実践する。 3. 小児の成長を支える意図的なコミュニケーションを学び、実践する。 4. カンファレンスに主体的に参加し、学びを共有する。	砂川市内保育 空知太保育所 さくら保育園 ひまわり保育園 〔上記 3 箇所のいずれか〕 砂川市立病院 院内保育所
＜子ども通園センター実習＞ 1. 指導者の指導・助言を受けながら、担当クラスの児と、個別・集団遊びを通して関わる。 2. 成長発達に気がかりや遅れがある小児の、成長発達の個人差と個性を理解する。 3. カンファレンスに主体的に参加し、学びを共有する。	砂川市子ども通園センター

〈　評　　価　〉
実習評価表に基づく評価

授業科目（単位―時間） 母性看護学実習（2 単位―90 時間）	時　　期 3 年前期・後期	担　当　講　師 亀井　聡子・田尻　美紀

〈　実習目標　〉

1. 周産期にある対象の生理的・身体的・心理的特徴と健康を促進する看護が理解できる。
2. 倫理観に基づき、母子への看護が安全・安楽に実践できる。
3. 母子関係の形成に留意し、子育て支援者として母子および家族と関係性を築くことができる。
4. 母性看護の場と看護の役割を理解し、協働のあり方を考察できる。
5. 母性の身体的・心理的・社会的特性をふまえて、自己の看護観が表現できる。
6. 主体的に学習し責任ある行動がとれる。

内容及び方法	実習場所
1. 対象理解 1）産褥期の対象理解と産褥経過の理解 2）母子相互作用の理解 3）新生児の健康状態の理解 4）分娩期の対象理解と分娩経過の理解 2. 計画立案・実施・評価 1）母子の健康促進や育児支援の実施 2）退行性変化の観察と促進する援助の実施 3）進行性変化の観察と促進する援助の実施 4）新生児の生理に配慮したフィジカルアセスメントの実施 5）環境や危険因子を考慮した新生児の清潔援助の実施 6）短期目標の到達状況の評価 3. 援助関係 1）対象の特性に応じた意図的なコミュニケーション 2）対象の心理的特性を尊重した関わり 3）愛着形成を意識した関わり 4）新生児の反応を意識した関わり 4. 協働 1）母性看護における保健医療福祉チーム連携の理解 2）看護チームの一員として必要な報告・連絡・相談 3）メンバーと協力した援助展開 4）目的達成を意識したカンファレンスの企画・運営 5. 看護観 1）自己の看護実践の意味づけ 2）母性看護から導かれた看護観の表現 3）学習結果の他者への伝達 6. 実習態度 1）責任ある行動をとるための健康管理 2）身だしなみと、礼節ある言動・行動 3）責任をもち約束事を守る姿勢 4）実習目標達成に向けた主体的・計画的な学習への取り組み 5）自己の目標と課題を意識した行動	砂川市立病院 3 階病棟（産科） 産婦人科外来

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位ー時間） 精神看護学実習（2 単位ー90 時間）	時期 3 年前期・後期	担　当　講　師 更谷　周子・戸田　悦子・東條　奈穂

〈実習目標〉

1. 精神障害・精神疾患のある対象者とその支援者の対人関係を含む日常生活に及ぼす影響について理解できる。
2. 精神障害・精神疾患のある対象者が回復に向かうために、倫理観に基づいた安全・安楽な看護を実践できる。
3. 精神看護のケアの前提を活用したコミュニケーションを実践できる。
4. 保健医療福祉チームの一員としての役割を実践できる。
5. 自己の看護観を表現できる。
6. 主体的に学習し責任のある行動がとれる。

内容及び方法	実習場所
＜病棟実習＞ ＜認知症ケアチーム・外来作業療法＞ ＜障害者自立支援施設くるみ実習＞ 1. 対象理解 1）対象を理解するための情報整理 2）生命過程を意識した病態の理解 3）対象の生命過程と生活過程及び認識過程のアセスメント 4）精神疾患・精神障害者のケア方針に沿った具体的で実践可能な計画・立案 2. 計画立案･実施・評価 1）看護の視点で病気をみつめ対象者の自立に向けた援助 2）回復過程を促進させる援助 3）自己決定を尊重した看護実践 4）治療による影響を考慮したフィジカルアセスメント 5）ケア方針に沿った看護実践の評価 3. 援助関係 1）自己の言動の特徴が対象に与えている影響の考察 2）精神障害･精神疾患のある対象者との関係を構築するためのコミュニケーション技術の活用 3）ケアの前提を活用したコミュニケーションの実践 4. 協働 1）保健医療福祉チームの連携の理解 2）保健医療福祉チームの一員としての行動 3）他職種が担っている病棟での役割の理解 4）カンファレンスへの主体的な参加と意見交換 5）精神障害・精神疾患のある対象者の生活を支える法律と制度の実際の理解 5. 看護観 1）自己の看護実践の意味づけ 2)看護観の表現 6. 実習態度 1）責任ある行動をとるための自己の健康管理 2）身だしなみに気を配り、礼儀正しく節度ある行動 3）責任を持ち約束を守る姿勢 4）実習目標達成に向けた助言を主体的に活用し、計画的な学習への取り組み 5）自己の課題への取り組み	砂川市立病院 3 階南病棟 4 階南病棟 5 階南館（作業療法室） 認知症センター 障害者自立支援施設　くるみ

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

統合分野実習

授業科目（単位ー時間） 在宅看護論実習（2 単位ー90 時間）	時　　期 3 年前期 ・ 後期	担 当 講 師 野田　孝子・和田　裕子

〈 実習目標 〉

1. 地域で生活する療養者とその家族の生活状況を知り、対象の望む暮らしを理解できる。
2. 見学・実践を通して、対象の状況に合わせた効果的な在宅ケアを実施できる。
3. 対象とその家族を尊重し、パートナーシップ*を意識した関わりができる。
4. 地域包括ケアシステムにおける多職種・他部署の役割を理解できる。
5. 在宅看護の役割を理解し、自己の看護観を表現できる。
6. 自己の課題を明確にし、主体的に実習に取り組むことができる。

内容及び方法	実習場所
1. 対象理解 1）対象者の健康状態、心身機能の把握 2）対象者と家族の生き方や生活に対する思いの理解 3）対象者を取り巻く環境の把握 2. 計画立案・実施・評価 1）訪問看護計画書に基づく看護実践 2）対象の望む暮らしに向けた支援の検討 3. 援助関係 1）パートナーシップを意識した意図的な関わり 2）訪問目的を理解しマナーを守った訪問 3）行動目標を意識した関わりの評価 4. 協働 1）地域包括ケアシステムにおける連携の理解 2）在宅ケアチームの一員として必要な報告・連絡・相談 3）目的達成を意識したカンファレンスの企画・運営 4）在宅訪問看護ステーションの機能と役割の理解 5）地域医療連携室の機能と役割の理解 6）看護外来の機能と役割の理解 7）救急科の機能と役割の理解 8）血液透析センターの機能と役割の理解 5. 看護観 1）対象者と家族の望む暮らしの実現にむけた看護実践の意味づけ 2）療養を支える継続看護についての自分の考えの表現 3）文章構成に基づいた表現 4）適切な文献を用いた根拠に基づく表現 6. 実習態度 1）実習に支障をきたさない健康管理 2）身だしなみに気を配り礼儀正しく節度ある行動 3）責任をもち約束事を守る姿勢 4）実習目標の達成に向けた主体的・計画的な学習の取り組み 5）課題意識の明確化と解決にむけた努力	砂川市立病院 訪問看護ステーションよつば 地域医療連携室 看護外来 救急科 血液透析センター

〈 評　　価 〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位ー時間） 看護の統合と実践（2 単位―90 時間）	時　　期 3 年 後期	担　当　講　師 戸田　悦子

既習の知識・技術・態度を統合し、看護実践に必要な能力を深めることをねらいとする。保健医療福祉チームの一員として看護の実際と役割を理解し、統合された判断と継続的な看護を展開する基礎的能力を養う。

〈　実習目標　〉

1. 看護チームの一員として複数の患者への看護を実践できる。
2. 医療チームの一員として看護の役割（看護学生）を遂行できる。
3. 看護実践のためのマネジメントを理解できる。
4. 看護師の倫理綱領を遵守し看護専門職として責任ある行動ができる。
5. 看護専門職者としてキャリアマネジメントへの展望から、自己の課題を明らかにできる。
6. 主体的に学習し責任ある行動がとれる。

内容及び方法	実習場所
1. 看護チームの一員として複数の患者への看護実践 1）時間配分や優先順位を判断した主体的な情報収集 2）時間配分や優先順位を判断した計画的な行動 3）ケア方針に沿った具体的で実践可能な援助 4）受持ち患者との良好な患者―看護者関係の構築 5）看護実践（期待される結果）の評価 2. 医療チームの一員として看護の役割（看護学生）遂行 1）看護職者の責任を自覚した情報共有 2）看護職者の責任を自覚した協調 3）看護職者の責任を自覚したエンパワーメント 4）夜勤帯での看護師の役割の理解 5）他職種との協働と連携の理解 6）一勤務帯（日勤）での看護の流れの把握 7）入退院時の看護の流れの把握 3. 看護実践のためのマネジメント 1）モジュールコーディネーターの役割の理解 2）モジュールメンバー間の協力や看護の提供方法の理解 3）病棟における看護管理者（看護師長）の役割と責任と業務の理解 4. 看護師の倫理綱領を遵守した看護専門職として責任ある行動 1）看護師の倫理綱領の実践的な理解 2）守秘義務の遵守と、個人情報・プライバシー保護の実践 3）自己決定の権利の尊重とインフォームドコンセントの理解 5. 看護専門職者としてキャリアマネジメントへの展望および自己の課題 1）自己の看護観と課題の明確化 2）看護専門職者としてのキャリアプランの明確化 6, 主体的な学習と責任ある行動 1）実習に支障をきたさない健康管理 2）身だしなみに気を配り、礼儀正しく節度ある行動 3）責任を持ち約束事を守る姿勢 4）実習目標の達成に向けた主体的・計画的な学習への取り組み 5）学習者としての課題の意識と取り組み	砂川市立病院 4 階西病棟 4 階東病棟 5 階西病棟 5 階東病棟 6 階西病棟 6 階東病棟 7 階西病棟 3 階南病棟 4 階南病棟 3～4 名/グループ

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価